

### 3 多摩川河口干潟の生物・底質調査の概要

#### 3.1 調査目的

川崎市では、従前から公共用水域における水質の常時監視を行っていますが、近年においては、水環境を把握するうえで重要な生物の調査を併せて実施しています。

干潟には多くの生き物が生息し、自然の浄化施設と言われています。多摩川河口干潟は、前述したように貴重な生物が生息する市内でも重要な環境であり、市民の関心も高まっています。

そのため、川崎市では、多摩川河口干潟に生息する生物とその生息環境の現状を把握することを目的に、「多摩川河口干潟の生物・底質調査」を平成12年度から平成17年度の6年間にわたり実施しました。

#### 3.2 調査項目

「多摩川河口干潟の生物・底質調査」では、次に示す3つの項目について調査を実施しました。

底質性状（マクロベントスの生息環境）

マクロベントスの生息状況

メガロベントスの生息状況



#### 【用語説明】

川、海、湖などに生息する生きもののうち、全くあるいはほとんどいつも水底に着いたままで生活する動物のことを**底生動物（ベントス、benthos）**と呼びます。

このうち、底曳網などで採集される大型のものを**メガロベントス**、0.5～1.0mm程度の篩の目にひっかかるものを**マクロベントス**、それよりも小さなものを**メイオベントス**、**ミクロベントス**と呼びます。

メガロベントスには一般に大型の貝類やカニ、魚など、マクロベントスには小型の貝類やゴカイなどが含まれます。

※本調査では、肉眼により確認できる大きさのものを便宜的にメガロベントス調査の対象としました。